

## 卒論テーマ案

# 『在宅医療とチーム医療の連携における課題 ——多職種協働と地域包括ケアの実効性をめぐって』

適合学部（①保健学部、②看護学部、③社会福祉学部）

### ■構成とアウトライン

#### 第1章：序論

- 1 節：研究背景—高齢化社会と在宅医療の必要性
- 2 節：問題設定—チーム医療の理念と実際のギャップ
- 3 節：研究目的と方法（文献調査＋現場調査＋ケーススタディ）

#### 第2章：在宅医療の現状と意義

- 1 節：在宅医療の制度的枠組み（医療保険・介護保険）
- 2 節：在宅患者の特性（高齢者・慢性疾患・終末期医療）
- 3 節：在宅医療の社会的意義と限界

#### 第3章：チーム医療の理論と実際

- 1 節：多職種連携の定義と目的
- 2 節：医師・看護師・リハビリ職・薬剤師・介護職の役割
- 3 節：チーム医療の成功要因（情報共有・役割分担・信頼関係）

#### 第4章：在宅医療とチーム医療の連携における課題

- 1 節：情報共有の課題（ICT・記録システム・個人情報保護）
- 2 節：職種間の認識ギャップ（医療と介護の視点差）
- 3 節：制度的制約と人材不足の問題

#### 第5章：先進事例と改善策

- 1 節：地域包括ケアシステムにおける連携実践例
- 2 節：ICT活用による情報共有改善（電子カルテ・オンライン会議）
- 3 節：教育・研修による多職種理解促進

#### 第6章：結論

- 1 節：在宅医療とチーム医療連携の現状と課題の整理
- 2 節：持続可能な在宅医療体制のための提言
- 3 節：今後の展望（AI・地域資源連携・制度改革）

---

### ■最適な学部の選定

#### ① 医学部／保健学部（地域医療・看護・リハビリテーション学科）

理由：在宅医療と多職種連携を学術的・臨床的に扱えるため。

---

## ■序章の具体例

### ◆保健学部の場合

日本は急速な高齢化の進展により、医療や介護の提供体制に大きな変革を迫られている。その中で、病院中心から地域・在宅中心へのシフトが進み、在宅医療の役割はますます重要になっている。在宅医療は患者が住み慣れた環境で療養を続けられるという利点を持ち、生活の質（QOL）の向上に寄与する。しかし、医師一人の訪問だけでは包括的な支援は困難であり、多職種によるチーム医療との連携が不可欠となる。

チーム医療とは、医師、看護師、リハビリ専門職、薬剤師、介護職など多様な専門職が協働し、患者の心身を総合的に支援する仕組みである。しかし現場では、情報共有の不十分さ、役割分担の不明確さ、職種間の認識の相違といった課題がしばしば指摘される。特に在宅医療では、患者の生活の場という特殊な環境において、医療と介護の視点をいかに統合するかが大きな課題となる。また、制度上の制約や人材不足も連携を阻害する要因である。

本研究の目的は、在宅医療とチーム医療の連携における課題を明らかにし、今後の改善策を提案することである。研究方法としては、既存文献の整理に加え、地域包括ケアシステムの事例分析や、医療・介護従事者へのインタビュー調査を行う。これにより、在宅医療におけるチーム医療連携の実態を把握し、情報共有の仕組みや職種間理解を深める教育的取り組みの可能性を検討する。最終的に、持続可能な在宅医療体制を構築するための具体的提言を行うことを目指す。

---

### ◆看護学部の場合

在宅医療の現場では、患者の生活に寄り添いながら医療支援を行う看護師の役割が極めて大きい。看護学的視点から見ると、在宅医療は医師主導の治療にとどまらず、生活全般を支える包括的ケアが求められる。そのため、看護師は他職種と連携し、情報を共有し、患者と家族の生活機能を維持する支援を行う必要がある。

本研究は、看護学の立場から在宅医療とチーム医療の連携を検討し、特に情報共有と役割分担の課題に焦点を当てる。訪問看護師や在宅支援チームの実態を調査し、より良い連携のための改善策を提示することを目的とする。

---

### ◆社会福祉学部の場合

高齢者や慢性疾患患者の在宅生活を支える上で、医療と福祉の連携は欠かせない。社会福祉の立場からは、在宅医療は単なる医療行為にとどまらず、生活支援や社会資源の活用と結びつけて考える必要がある。しかし現場では、医療と介護の制度的断絶や情報共有不足が課題となり、十分な支援が実現できていない。

本研究は、社会福祉の視点から在宅医療とチーム医療の連携課題を検討し、地域包括ケアの枠組みでどのように多職種協働が実現できるかを分析する。

---

#### ■評価点を上げるアプローチ

- ・ 医療・介護従事者のインタビューや調査を導入
  - ・ ICT・地域包括ケア事例を組み込む
  - ・ 成功事例と課題事例を比較分析する
- 

#### ■補足

このテーマは「高齢社会」「医療介護連携」「地域包括ケア」という3本柱を扱える優れた題材です。制度的枠組みの検討だけでなく、現場の声を反映させれば独創性が高まり、実務への応用も可能です。

---

#### ■小学生の自由研究としての成立性

不適切。ただし「家族で役割分担をすると作業が早く進むか」という簡易実験なら疑似的に応用できる。

---